

佐 怒 賀 直 美 * 選

一般の部「自由に四季を詠んだ作品」◎入選

一本の糸上り下り夜の蜘蛛

軒低き家の団らん秋灯

石垣に残る栄華や桐一葉

盤座に雲を重ねて青山河

山笑ふ村に十年ぶりの稚

半世紀盲を生きる母の汗

白桃をすする乙女のやうな母

院殿居士の墓守る蛇と出会いけり

灼けにける開拓碑文字読み下す

琴の音を笛が追ひかけ夜の秋

亡き友のレコードに針月おぼろ

水色の眼や虫喰らうオニヤンマ

鉦叩風呂場の横に陣をとり

湖底より雲湧くごとし夏の果

葛の花揺れて川面に届かざる

朝蟬の鳴かぬ朝来て眉を描く

無住寺のけふ戸が開く沙羅の花

下半身川に溶かして鮎を釣る

現世の光あつめて紅葉散る

零余子落つ母の小言のやうに落つ

矢吹町 納 谷 一 光

福島市 平 原 正 道

埼玉県さいたま市 増 田 信 雄

埼玉町 瀬 谷 節 子

矢吹町 木 戸 和 男

白河市 小 林 富 子

東京都江戸川区 羽 住 博 之

埼玉県新座市 佐 藤 時

白河市 久 保 田 直

神奈川県横浜市 佐 野 良 彦

矢吹町 印 田 弘 司

白河市 遠 藤 優 子

白河市 北 川 信 弘

白河市 佐 藤 和 子

白河市 中 里 雅 子

川俣町 高 澤 百 合 子

会津若松市 新 井 田 美 佐 子

須賀川市 近 江 美 以 子

白河市 吉 原 瑞 雲

一般の部「白河を詠んだ作品」◎入選

湖風が秋風となり野を渡る

三関の一にかかりて青葉風

浦安の鈴振る舞や祭宿

夏木立石段長き子規の宮

流麗の反りの石垣秋の城

昼月の真白く高く関の跡

三重の櫓にほのと朝の雪

石垣に散る音もなし花の雨

八聲村在りしは此処と蝸牛

さざ波や菱の実を狩る小舟追ふ

定信の士民共楽草団子

関跡に桜落葉の多さかな

白河の夜の深さや除夜の鐘

売り言葉買つて片目のだるま抱く

湖面牙ゆ松楽亭に濃茶の香

大花野に溺るる句碑や古関跡

しゃぼん玉白河の関よりのぼる

埼玉町 神 永 秀 郎

矢吹町 藤 田 光 徳

白河市 小 川 コ ウ

須賀川市 伊 豆 周 治

南相馬市 甲 田 雅 子

西郷村 高 宮 章 一

白河市 坂 本 剛

白河市 田 村 幸 吉

白河市 田 村 玲 子

宮城県松島町 片 倉 義 之 助

白河市 古 川 一 光

白河市 吉 原 瑞 雲

東京都文京区 遠 藤 玲 奈

愛知県東浦町 伊 藤 京 子

千葉県千葉市 千 葉 信 子

海外の部 ◎入選

イグアスの三国結ぶ千の滝

碧眼の僧侶経読む移民の日

八十年息する口や桜餅

慰霊碑を建てる話や花マンガ

朝霞晴れて湧き立つ人の声

伯 サンパウロ州 サンパウロ市 平 間 浩 二

伯 サンパウロ州 サンパウロ市 伊 藤 き み 子

伯 サンパウロ州 モジ・ダス・クルーゼス市 浅 海 喜 世 子

伯 マットグロッセ・ド・スール市 那 須 千 草

伯 サンパウロ州 サンパウロ市 申 間 い つ え

一般の部「白河を詠んだ作品」◎入選

先導は黒揚羽蝶関の跡

菊の香や敵味方なく戊辰の碑

松を越え藤咲き乱る関の森

矢吹町 納 谷 一 光

白河市 渡 辺 順 憲

白河市 朱 泉